

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2025
Spring-Summer No. 49

学び 究め 貢献する



岐阜大学

岐阜から

宇宙へ

岐阜大学工学部附属宇宙研究利用推進センター

本格的な宇宙開発を見据えて
技術者と宇宙産業を
岐阜県から

ぎふハイスクールサットプロジェクト

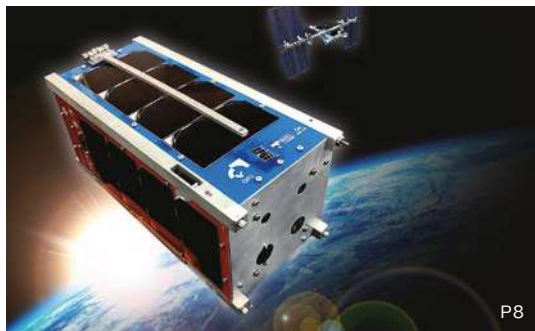
高校生が製作した人工衛星を打ち上げ！
宇宙への関心を将来へつなぐ実践教育

c-SRUPの研究領域

11m電波望遠鏡

キャンパス内に設置された
電波望遠鏡から誰も見たことのない
宇宙を見る！

天体観測を楽しむサークル 星を観る会
岐阜の夜空に仲間が集う！



岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

岐大の いぶき

2025
Spring-Summer No.49

published by



東海国立
大学機構



岐阜大学

04-11 【特集】岐阜から宇宙へ

岐阜大学工学部附属宇宙研究利用推進センター

本格的な宇宙開発を見据えて技術者と宇宙産業を岐阜県から

宇宙研究利用推進センター センター長／機械工学科 知能機械コース 宮坂 武志 教授

宇宙研究利用推進センター 副センター長／機械工学科 機械コース 高橋 周平 教授

c-SRUPの研究領域

ぎふハイスクールサットプロジェクト

高校生が製作した人工衛星を打ち上げ！宇宙への関心を将来へつなぐ実践教育

工学部 機械工学科 機械コース 西田 哲 准教授

11m電波望遠鏡

キャンパス内に設置された電波望遠鏡から誰も見たことのない宇宙を見る！

工学部 電気電子・情報工学科 応用物理コース 佐野 栄俊 准教授

天体観測を楽しむサークル 星を観る会

岐阜の夜空に仲間が集う！

部長／教育学部 理科教育講座 4年

馬淵 裕輔 さん

副部長／医学部 医学科 3年

高田 惟登 さん

副天体観測隊長／教育学部 数学教育講座 3年

野村 大智 さん

12-13 先輩の声

岐阜大学の実践的な学びが技術者として活躍するための
確かな土台を築いてくれた。

太平洋工業株式会社 工機部

2019年 自然科学技術研究科 物質・ものづくり工学専攻 設計生産領域 卒業

小坂井 祐季 さん

太平洋工業株式会社 新規事業推進部

2019年 自然科学技術研究科 知能理工学専攻 知能情報学領域 卒業

福井 豊明 さん

14-15 岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。

保育の現場で悩みを抱える先生に寄り添い、
やりがいを持って働けるように支えたい。

教育学部 学校教育講座 教育心理コース 松本 拓真 准教授

16-19 いまを駆ける！岐大生FACE

岐阜県特産の富有柿をブランド化し、生産から販売、輸出までを
行う会社を起業。日本の農産物を名実ともに世界一にしたい。

Umai Japan株式会社 代表取締役

応用生物科学部 生産環境科学課程 4年

杉本 稜太 さん

住むことで見てきた揖斐川町の魅力を、多くの人に伝えたい。

2025年 応用生物科学部 生産環境科学課程 卒業

白井 美里 さん

自然科学技術研究科

生物生産環境科学専攻 応用植物科学領域 修士 2年

小島 ひなた さん

20-21 Topics 岐阜大学の取り組み Oct.2024→Apr.2025

22 岐阜大学基金

特集

岐阜から 宇宙へ

航空産業のイメージが強い岐阜県ですが、
実は宇宙産業にも積極的に取り組んでいます。

岐阜大学では、宇宙に関わる研究活動を
幅広く展開しています。

高度な宇宙技術者の育成や産業創出の支援、

宇宙での活動を支える技術研究、

さらには宇宙の謎に迫る最先端の研究まで。

「宇宙」をキーワードに、

岐阜大学の多彩な活動を紹介します。

本格的な宇宙開発を見据えて 技術者と宇宙産業を岐阜県から

現在の大学生や高校生の皆さんが社会で活躍する頃には、月面に生産の拠点が建設されるようになり、当たり前「宇宙人材」が必要とされるでしょう。2023年設立の岐阜大学工学部附属宇宙研究利用推進センター(c-SRUP)は、そんな時代を見据えた組織です。高校在校中から大学・大学院までの一貫した高度な宇宙技術者育成を中心に、宇宙に関連する研究開発のサポートや産学官連携による宇宙ビジネス創出の支援を行います。



宇宙研究利用推進センター
センター長
機械工学科 知能機械コース
宮坂 武志 教授

宇宙研究利用推進センター
副センター長
機械工学科 機械コース
高橋 周平 教授



高校生から宇宙に興味を持ち 大学進学につながる学びの機会を

岐阜県はアジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区に指定されており、立地する企業の多くが航空機産業です。未来を担う高校生に、早くから宇宙を意識し岐阜大学工学部への進学につなげてもらいたいと考え、2016年、有志の教員でオンライン講義や宇宙航空研究開発機構(JAXA)の見学などを行う高大連携教育「宇宙工学講座」を開設。2021年、岐阜県と岐阜大学は宇宙産業を将来の中

核産業と捉え、宇宙人材育成、産学官連携による宇宙産業育成を推進する「ぎふ宇宙プロジェクト研究会」を発足、吉田和弘学長が座長を務めています。宇宙工学講座がこの研究会の一環となったことを受け、より本格的な人材育成のため、2023年に宇宙研究利用推進センターを開設しました。

スタートからの2年間は 人材育成の仕組み整備に注力

この2年間で注力したのは、宇宙工学講座で宇宙に興味を持った高校

生が岐阜大学で学び続けられる「高大接続」の整備です。

宇宙工学講座と、2013年から実施の空き缶サイズの人工衛星を打ち上げる学外団体主催の「缶サット甲子園」への参加に加え、新たな実践的教育として、複数の工業高校の生徒が人工衛星製作からアメリカの民間ロケットによる打ち上げまでを行う全国初のプログラム「ぎふハイスクールサット(GHS)」がスタート。宇宙時代に求められる人材要件を、内閣府は「宇宙スキル標準」として定めていますが、宇宙工学は電

気・電子や機械、情報など多分野から成る総合工学で、仲間との協力が不可欠です。人工衛星を題材にすると、それらを有効に学ぶことができます。加えて高校生のうちから「宇宙に携わるにはさまざまな知識が必要だ」と認識でき、大学1～2年次の授業にも「将来、必ず役立つ」という姿勢で臨むことで、大学3年次以降は、研究室で宇宙関連の多彩な研究に携わることができます。このように高校から大学の学部、大学院へと、一貫した宇宙人材の育成を系統的に考えている大学は全国でも稀少だと自負しています。

新たな可能性を生む研究連携と 県内企業の参入を後押ししたい

当センターの役割である研究開発支援と産学官連携は、これから本格化していきます。

研究開発支援については、教員の連携により新しい可能性が生まれる研究体制を構築している段階です。産学官連携に関しては、経済産業省中部経済産業局などの機関と連携して東海地区の企業との技術マッチングを図ります。また、ここ数年の政府の宇宙開発戦略を受け、スペースベンチャー企業も増え、JAXAの大型プロジェクト以外に、こうした企

業のビジネスの種を育てる共同研究も積極的に展開していきます。民生用技術の宇宙分野への応用も注目される中、宇宙産業に参入するノウハウを持たない企業に対して、我々はGHSの実績を活かし、小型衛星を使った衛星軌道での技術実証試験を橋渡しできると考えています。県内企業が宇宙産業に参入するときの支援を、先陣を切って進めていきます。

岐阜で学び、就職したい人が 宇宙に関われることが最終目標

人材育成については、宇宙工学講座を受講した高校生が岐阜大学へ進学するなど、一定の成果を実感しています。GHSは2025年夏頃に打ち上げを予定しており、その後は人工衛星から得た画像や音声データの活用プログラムを実施します。

今年度は二つの大きな計画を進めています。一つは学部・大学院の6年間の一貫した教育プログラムの確立を目指し、大学院生向けの宇宙工学講座の設置。もう一つは、施設や設備を充実させることで、従来はJAXAの施設で行っていた衛星の試験などを大学内で実施できる環境作りを目指していきます。最終的には、地元志向の高校生に「宇宙に関する学びも、宇宙産業への参画も、すべ

岐阜県の航空宇宙産業

製造品出荷額
2,543億円
全国3位

従業員数
6,810人
全国3位

事業所数
56件
全国2位

出典：経済産業省「2021年経済センサス活動調査」
経済産業省「2023年経済構造実態調査」

て岐阜県で実現できる」という道を示すことです。

かつて宇宙と言えばロケットを飛ばす「宇宙輸送」が中心でしたが、今や「宇宙環境利用」が現実的に考えられる時代となりました。宇宙に関わる方法は多岐にわたり、宇宙ミッションは多様な専門分野の共同作業です。月面に持続可能な生産拠点を設けるには、電気・電子や機械、情報分野にとどまらず建築や経済、医学、農学などの分野も必要です。地球より小さい重力下で活動するには、新たなアイデアも求められます。高校生や大学生の皆さんには、分野を問わず宇宙を少しでも意識しながら学び、柔軟な発想力を生かして、ぜひ宇宙を含めた社会の発展に貢献してもらいたいと願っています。

宇宙飛行士の山崎直子さんからメッセージをいただきました！

学生さんたちが、地元、岐阜県の取り組みに触れ、ご自身の興味のあるテーマを見つけて、高校生のうちからその学習を深掘りできるプログラムがあることは素晴らしいことだと思います。地域の企業とも連携しつつ、高校、大学、大学院と一貫した教育プログラムに参加する過程で、リーダーシップ、柔軟な発想力、実践的な力などを培うことが出来るからです。私もこれまで、缶サット甲子園や宇宙工学講座の活動に関わってきましたが、参加する学生さん達の真剣な姿勢と創造力がとても印象に残っています。宇宙分野の裾野は広いので、さまざまな切り口から学ぶことができ、その過程で培った知識や学習経験は、どの道に進んだとしても、それぞれの分野で活躍する際の力になると思います。高大連携プログラムを通じて、岐阜県の宇宙産業が更に発展し、学生さんたちが大きく羽ばたいていけることを期待しています。



研究領域

宇宙開発のための研究から、宇宙誕生の謎に迫る研究まで、岐阜大学工学部では多様な宇宙関連研究を進行しています。異分野が融合することで、新たな研究テーマが生まれる可能性を秘めています。

ロボットハンドの遠隔操作

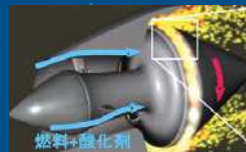
人間の代わりに作業をする多関節で器用な人間型ロボットハンドや指先力15kg以上の高出力ロボットハンドを開発。遠隔操作や触覚フィードバックなど、宇宙の極限環境での応用を研究しています。



機械工学科知能機械コース 毛利 哲也 教授
高等研究院 航空宇宙生産技術開発センター 尾関 智恵 准教授

宇宙往還機エンジン

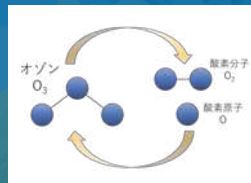
スペースプレーン（自力で離着陸や大気圏離脱・突入ができる宇宙船）やロケットを地球周回軌道へ到達させる、デトネーションエンジンやスクラムジェットエンジンなど、超音速燃焼を応用した高推力エンジンの開発を行っています。



機械工学科知能機械コース 朝原 誠 准教授

成層圏科学

地表高度10～50 kmに広がる成層圏では、太陽から地球へと降り注ぐ紫外線の一部をオゾン(O₃)が吸収し、化学反応で熱に変換します。この特徴を活かし、新たなサイエンスの可能性を探索しています。



機械工学科機械コース 西田 哲 准教授

宇宙人材教育

2005年から毎年フランスのC'SPACEに機械工学科の学生チームで自作のロケットの打ち上げを行っていました。また、缶サット甲子園岐阜地方大会の主催や宇宙工学講座の立ち上げなど、高大連携による一貫教育を企画・実施。宇宙時代に活躍できる人材の育成を目指し、STEAM教育プログラムの充実を図っています。



地域協学センター 連携推進副部門長 専任教員 佐々木 実 特任教授

電気推進ロケット

今後の宇宙空間における宇宙機エンジンの主役として期待されている「電気推進ロケット」の開発。特に小惑星探査機「はやぶさ」のイオンエンジンの仲間である「ホールスラスト」を束ねた大型宇宙ミッション用システムなどの研究を進めています。



c-SRUPセンター長、機械工学科知能機械コース 宮坂 武志 教授

宇宙物理学

大学構内の11m電波望遠鏡(P10参照)をはじめ、世界中の地上望遠鏡・観測衛星により得られた天文観測データを駆使して、星の誕生と終焉の仕組みの全容解明に挑んでいます。



電気電子・情報工学科応用物理コース
佐野 栄俊 准教授、村瀬 建 助教、高羽 浩 研究員

宇宙材料

探査機を大気圏突入時の約3000℃の高熱から守る「3次元炭素繊維耐熱材」の研究や、人工衛星用の二次電池(充電可能な電池)に使われるシリコン材料を高速のプラズマ噴流で効率的に製造する技術の研究を進めています。



機械工学科機械コース
仲井 朝美 教授、西田 哲 准教授

エネルギーマネジメント

月面や宇宙船での活動には、酸素・水・食糧などの「物資」と、冷暖房や照明、PCなどに使う「エネルギー」が不可欠です。これらを地球から運ぶのではなく、現地で循環させる方法を研究しています。

機械工学科知能機械コース 朝原 誠 准教授

宇宙火災の予測・防止

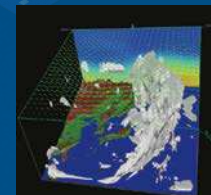
無重力環境の国際宇宙ステーションや月面基地での1/6重力下で固体材料がどのように燃えるのかを、国際宇宙ステーションでの実験も交えて調べ、火災の定量的な予測手法を構築。宇宙活動における火災安全基準策定を目指します。



c-SRUP副センター長、機械工学科機械コース 高橋 周平 教授
機械工学科機械コース 小林 芳成 准教授

宇宙太陽光発電・送電技術

宇宙空間に設置した太陽光パネルで発電した電力を、レーザー光として地球へ送電する効果的な技術を研究。宇宙用太陽電池の特性評価や大気中のレーザー伝搬、天気予報を活用した大気の透明度推定技術にも取り組んでいます。



電気電子・情報工学科電気電子コース 吉田 弘樹 教授
社会基盤工学科環境・防災デザインコース 小林 智尚 教授

衛星・携帯通信による遠隔操船

船舶の安全な運行に必要となる高度な専門性を有する人材が不足しています。本研究では陸地より船舶を衛星や携帯通信を介して遠隔操作するための制御・支援技術の確立を目指しています。



機械工学科知能機械コース 毛利 哲也 教授
高等研究院 航空宇宙生産技術開発センター 尾関 智恵 准教授

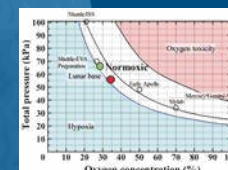
星間通信ネットワーク

深宇宙通信や惑星間インターネットなど、宇宙における遅延耐性ネットワーク(DTN)の基礎を研究。宇宙という過酷な環境下での研究は、地上の極地通信や災害時における通信インフラの復旧にも役立つことが期待されます。

電気電子・情報工学科情報コース 金子 美博 准教授

宇宙利用時の活動環境

宇宙環境では地球上にはない現象が発生します。例えば、月面基地の外で活動し基地内に戻る際には、高酸素濃度・低気圧の室内で体を慣らす必要があります。火災の抑止と順化を両立できる酸素濃度と気圧のバランスを研究しています。



c-SRUP副センター長、機械工学科機械コース 高橋 周平 教授
機械工学科機械コース 小林 芳成 准教授

ロケットモーター

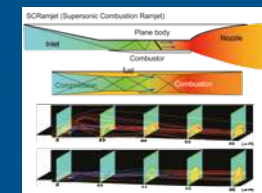
人工衛星のサイズやコストは二極化していますが、どの人工衛星も姿勢制御を失えば、通信が不能となり、寿命を迎えます。そこで安価な小型衛星向けの姿勢制御用極小ロケットモーター「マイクロロスタ」を開発しています。



機械工学科機械コース 小林 芳成 准教授

スクラムジェット

ロケットは全重量の約90%を推進材が占め、大量の荷物を運べません。一方、スクラムジェットは大気中の酸素を利用し、航空機の8倍の超音速で大気圏を脱出できるエンジンです。80年も前に考案された機構を最新のシミュレーション技術で実現しようとしています。



c-SRUP副センター長、機械工学科機械コース 高橋 周平 教授
機械工学科知能機械コース 朝原 誠 准教授

高校生が製作した人工衛星を打ち上げ! 宇宙への関心を将来へつなぐ実践教育

複数の高校の生徒が共同で人工衛星の製作から運用までを行う「ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト」。2016年の宇宙工学講座開講当時から、高校と大学をつなぐ実践的な人材育成プログラムとして計画しました。岐阜県や県内高校の先生の支持、県内企業の協力、JAXAなど関係機関との連携により実現しました。手探りの試みでしたが、高校生の熱意に大いに刺激を受けました。今後も宇宙に関する学びの機会を広げる活動を続けていきます。

工学部機械工学科 機械コース
西田 哲 准教授



▶ GHSプロジェクトの取り組み

キック
オフ

2022

2023

2024

2025
打ち上げ

2022年～

1 人工衛星の学習と構想

プロジェクトは岐阜大学で開催されたキックオフイベントでスタート。県内企業と高校生がグループワークを行い、「打ち上げた人工衛星で何をするか」を議論。人工衛星の学習キットを活用し、仕組みや実験・評価方法について学びました。



2023年～

2 ミッション決定

人工衛星のサイズや重量の制限内で搭載可能な太陽電池の数などを計算。それに基づき、高校生が出したアイデアを「この電力で実現できるか」先生たちが検討。その結果、ミッションを「画像撮影」「音声通信」に決定しました。



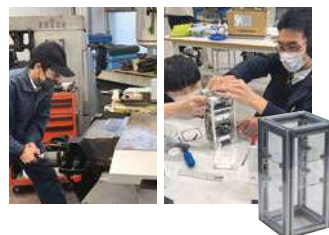
3 設計

高校・大学の教員が、筐体(フレーム)や電子回路の基本設計、電源システムの検討、部品の選定を実施。協力企業に回路基板の製作を依頼しました。GHSプロジェクトには岐阜大学の学部生・大学院生も指導に携わりました。



4 初号試作機製作

GHS初期モデルを製作し、筐体や電子回路が打ち上げ時の振動や宇宙空間の温度変化(−150〜80℃)に耐えられるかをテスト。金属棒をボルト留めしたフレームでは、振動試験でボルトが外れるなどの課題が見つかりました。



2024年～

5 試作機製作・環境試験

筐体をネジ止め不要の削り出しによる一体型に改良。電源用のリチウムイオン電池は振動試験や真空試験を実施し、30本の候補から良品の2本を選定。改良版の試作機を計4機製作し、完成形に近づけていきました。



6 フライトモデル製作・射出確認

実際に宇宙へ飛ばす最終モデルに精密部品を組み込み、耐振動性や表面のざらつきが射出時に問題とならないかなどを確認。NGなら分解・修正と再テストを繰り返し、安全審査をクリアしました。

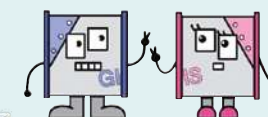


7 引き渡し準備・完成

JAXAが定める安全基準を満たし、ロケット打ち上げ時の振動や宇宙空間での動作確認を実施。2024年12月にJAXAへの引き渡しを完了しました。



外観には高校生のアイデアでGHSのマスコットキャラを描きました!



構造

マイクロコンピュータ

2基のコンピュータで幅広い測定を行うGHSの心臓部。

筐体

金属の塊から削り出した高精度・高強度のフレーム。



工学部の研究室に設置された管制室

2025年夏頃

8 打ち上げ

GHSはアメリカの民間ロケットで国際宇宙ステーション(ISS)へ輸送され、宇宙飛行士によって衛星軌道に投入。その後、海外の学生と人工衛星を介した音声通信などを行うプログラムを普通科高校も交えて開始します!

ミ ッ シ ョ ン

Mission
01

地球からの指令により、宇宙から地球を撮影し画像を地球へ送信

Mission
02

宇宙から無線で地球へ発信(誰もが無線で受信可能)

※人工衛星は地上から約400kmの高さの軌道を1周約90分で周回

プロジェクト事務局・運営・技術協力

岐阜大学

衛星設計・製作役割分担(発足時)

構造・筐体チーム 岐阜工業高校

電力チーム 大垣工業高校

制御チーム 可児工業高校

無線通信チーム 岐南工業高校

技術補助・アドバイス

岐阜県内企業

参加した高校生の声



岐阜県立岐阜工業高等学校 電子工学科

木村 勇翔 さん(右)

岐阜県立大垣工業高等学校 電子工学科

日比野 碧海 さん(左)

Q.参加したきっかけは?

木村さん 1年生のとき仲のいい先輩に誘われたのがきっかけです。

日比野さん 先生に勧められました。天体観測が好きで、高校生から宇宙に関われるのは魅力的でした。

Q.どんな役割を担当しましたか?

木村さん 筐体やテスト用治具など広く関わりました。アンテナの形状や位置、大きさの制約が多く、何度もトライしました。

日比野さん 電池のテストを担当しました。測定治具の形状から測定結果グラフの見方

で苦労しましたが、先輩方から受け継ぎ積極的に関わりました。

Q.学んだことや今後の目標は?

木村さん モノの性質がわかるおもしろさや自分で考えてつくる楽しさを味わい、機械系の知識が身に付きました。将来、人が行けない場所で働くロボットの開発に挑戦したいです。

日比野さん 技術だけでなく、他校の生徒や大学の先生とも関わり、人とながら楽しさを学びました。卒業後は工業高校の実験助手になります。



岐阜県航空宇宙博物館をご視察された天皇皇后両陛下に、GHSの取り組みを説明しました(2024年10月15日) 写真提供:岐阜県

キャンパス内に設置された 電波望遠鏡から 誰も見たことのない宇宙を見る！

電波望遠鏡は、可視光で見る光学望遠鏡と違い、電波を収束させて天体を観測します。岐阜大学工学部の宇宙科学研究室では、11m電波望遠鏡を使って宇宙研究に挑み、特色ある開発研究に取り組んでいます。

工学部 電気電子・情報工学科
応用物理コース
佐野 栄俊 准教授



星の誕生と終焉の謎に迫る

ビッグバン直後の宇宙には水素とヘリウムの2元素のみが存在し、大量の水素ガスが集積されることで星を形成しました。その内部でつくられた物質が、星の最期の大爆発などを通して宇宙空間へ放出され、現在の多様な元素に満ちた宇宙となりました。質量の大きな星は爆発後にブラックホールを形成する場合があります。

宇宙科学研究室では11m電波望遠鏡を用い、こうした「星の誕生と終焉の現場」を研究しています。2014年には、他大学や国立天文台の電波望遠鏡とのVLBI観測*で、天の川銀河の中心にあるブラックホー

ルの高感度定点観測に成功。現在は、太陽と同程度の質量を持つ星が一生の終わりに発する「メーザー」と呼ばれる強力な電波を捉えることで、元素放出の仕組みの全容解明に挑んでいます。

太陽の8倍以上の質量を持つ巨大星が超新星爆発時に発するX線やγ線と、電波で調べられる水素ガスの分布を組み合わせた多波長解析により、単一の波長領域では見えない「誰も見たことのない宇宙を見る」研究は、世界をリードしています。南米チリにある名古屋大学のミリ波望遠鏡NANTEN2と連携し、星のもとになる水素ガスの世界初の宇宙地図を描くことで、星の誕生の仕組みにも迫ります。

※VLBI: Very Long Baseline Interferometry (超長基線電波干渉法) の略。離れた場所にある複数の電波望遠鏡を使い、まるで巨大な一つの電波望遠鏡のように高い「視力」で宇宙を観測する方法。

宇宙の研究は多面的な力を育む

電波望遠鏡を持つ7大学のうち、岐阜大学は唯一、学内に電波望遠鏡が設置されています。学生は宇宙の研究を通じて、工学に加え数学や物理といった理学的な理解を深め、あらゆる分野に応用可能なロジカル思考などのスキルを身に付けます。学生が世界最先端の研究テーマを提案することも。チリの大規模電波望遠鏡「アルマ」を使用するための観測提案[採択率約15%]では、昨年度は、宇宙科学研究室から16件を応募し、学生の提案課題2件を含む10テーマが採択されました。人生を懸ける価値ある研究と、成長著しい人材の育成を楽しみながら、岐阜から宇宙を切り拓いていきます。



観測室では電波望遠鏡の操作盤のほか、VLBI観測に必要な1千万年で誤差±1秒の水素メーザー時計や時刻比較装置などの機器を設置

観測帯域	21.5-23.8GHz (波長約1.35cmの「センチメートル波」を受信)
駆動速度	3.0度/秒 (パラボラ面が2分で1周の速度で駆動し、人工衛星の追尾も可能)

地殻変動の観測用として通信総合研究所が東京で運用した後、同じ用途で2002年に岐阜大学に移設。岐阜大学宇宙電波観測所を設立し、現在は、電波天文学の研究用として活用。



天体観測を楽しむサークル

星を観る会

岐阜の夜空に仲間が集う！



ハートピア安八で撮影した月

「星を観る会」は、OBによると今から80年以上前、仲間が数人で星を眺める活動をしていたのがルーツだとのこと。次々と参加者が増えてサークルとなり、1986年のハレー彗星接近に伴う天文ブームの時期にメンバーが急増したそうです。コロナ禍以前は入部テストがありましたが、現在は誰もが楽しめるサークルをモットーとしています。

大学院生を含む文理幅広い学部学科のメンバーは、生粋の天文ファンから、岐阜ならではのサークル活動がしたいという人、先輩とのつながりをつくりたくて参加した人など、さまざまです。主な活動は2週間に1回、キャンパス内やクルマで20分ほどの本巣市にある東外山ふれあい広場などで行う天体観測です。毎回、希望者10人程度が参加し、部長の星空案内を聞き、天体望遠鏡で惑星や星座、銀河などを観察します。

最近では安八町の生涯学習センター「ハートピア安八」にある本格的な天文台施設で、口径700mmの大型望遠鏡を使った観測も行っています。いろいろな天体を観て知る楽しさのほか、移動中の車で先輩に授業の内容から恋愛の悩みまで相談でき、毎回違う参加者とつながれるなど、魅力いっぱいのサークルです。

毎年春と夏には夜通し星空を眺める合宿を、長野県などで行って

ます。昨年は実施できませんでした。今年は復活する予定です。その他にも、サークル内のフォトコンテスト企画や過去に岐阜市の施設「ドリームシアター岐阜」で行っていたプラネタリウム公演のボランティア活動の再開も目指し、天文に興味を持ってくれる人を増やせるよう活動していきます。

キャンパスから
星空が楽しめるのは
岐阜ならではの！

星を観る会

大学公認サークル。晴天時には天体望遠鏡を使った観察を、曇りなら夜景鑑賞、雨なら部室で宇宙旅行のシミュレーションゲームなど、宇宙や星との関わりを中心とした仲間づくりを楽しんでいる。

野村 大智 さん
副天体観測隊長
教育学部 数学教育講座 3年

馬淵 裕輔 さん
部長
教育学部 理科教育講座 4年

高田 惟登 さん
副部長
医学部 医学科 3年



太平洋工業株式会社 工機部

小坂井 祐季 さん

2019年 自然科学技術研究科
物質・ものづくり工学専攻 設計生産領域 卒業

太平洋工業株式会社 新規事業推進部

福井 豊明 さん

2019年 自然科学技術研究科
知能理工学専攻 知能情報学領域 卒業

先輩の声 volume 05

岐阜大学の実践的な学びが 技術者として活躍するための 確かな土台を築いてくれた。

現在のキャリアにつながる 高度な技術に触れた学生時代

福井 私は名古屋市出身で、もともと国公立大学を志望していました。高校の情報の授業でプログラミングに触れた際に、その奥深さと面白さに魅了され、進学先として岐阜大学の工学部電気電子・情報工学科情報コースを選びました。大学院では知能理工学専攻に進み、機械学習やAIに関連した分野を専門に研究。学部時代から田村研究室に所属し、当時まだ一般的ではなかった機械学習に早くから取り組んだことで、将来は

この分野で仕事をしたいと強く思うようになりました。

小坂井 私は岐阜県海津市の出身で、地元で学べる国公立大学という点で岐阜大学を選びました。学部では機械システム工学科に所属し、途中で1年休学を挟みながら、大学院では設計生産領域へと進みました。金型の設計や製作を実践的に学べる王・吉田研究室に入り、授業の一環で参加した日本金型工業会主催の「学生金型グランプリ」では、仲間と共に製品づくりに挑戦し、優勝することができました。今振り返ってみても、設計から加工、プレゼンに至るまで、

本当にたくさんのことを学ばせてもらえたと感じています。

福井 学外でのアルバイトも良い勉強になりました。塾講師として高校生に数学や物理を教えていたほか、テーマパークでの接客業も経験する中で、仕事を進めるうえで大切なコミュニケーション力やプレゼン力が磨かれたように感じます。

小坂井 私も塾講師や家庭教師を中心にアルバイトをしていて、休日には大量の仕事を詰め込み、稼いだお金で海外旅行を繰り返していました。タイやカンボジア、モロッコ、トルコなど、さまざまな国を巡り、異文

小坂井さん



1.金型の構造について議論を行う小坂井さん 2.学生時代には海外旅行でトルコのカッパドキアを訪れた 3.大学院時代にはゼミ仲間とともにアイルランドで開催された国際学会「AMPT2018」に参加



福井さん



1.福井さんの職場風景。AIを活用したプロジェクトなどに取り組む 2.台湾のAsia Universityで開かれた「ICSSI2018」で発表を行う福井さん 3.牛体調監視システム「CAPSULE SENSE」の親機



化に触れることで視野が広がったと思います。中でもカナダにはワーキングホリデー制度を利用して1年間滞在しました。この経験を通じて語学力だけでなく、海外のどこにでも一人で行ける自信が付きしました。

重要なポジションを任せられ 大きなやりがいを感じて

小坂井 学生時代に金型を専門にしていたこともあり、就職先は製造業の中でも特に自動車部品メーカーに絞って探しました。太平洋工業は地元企業であることに加え、売上のおよそ半分を海外で上げていることにも惹かれました。海外志向が強い私にとって、国内外の両方の拠点で活躍する機会に恵まれている当社はとても魅力的でした。

福井 私は所属する研究室が共同研究をしていた縁もあり、太平洋工業とは学生時代から深い関わりがありました。大学院時代には2週間のインターンシップにも参加。AIを活用して機械の故障を事前に予知して保全するプロジェクトなどに携わる中で、自分のスキルを活かして活躍できそうだという実感が湧き、この会社で働きたいと思うようになりました。

小坂井 私は現在、工機部のダイエエンジニアリンググループに所属し、自動車部品製造に用いる金型の設計を担当しています。難易度の高い金型の設計に携わることで、その技術の

奥深さを実感しています。学生時代から車が好きだったこともあり、自動車づくりに幅広く関われるのが何よりうれしいですね。

福井 私は新規事業推進部のセンシングデバイス開発2グループに所属しており、牛の体調をモニタリングするデジタルツール「CAPSULE SENSE」の開発プロジェクトなどに携わっています。学生時代から学びを深めてきたAI技術を通じて、社会課題の解決につながるサービスを生み出せることに大きなやりがいを感じています。

学びの環境が整った岐阜大学は 自分の可能性を広げてくれる

福井 現在の職場では、学生時代に培ったプログラミングのスキルがそのまま活かせる場面がとて多いです。特に業務の効率化を図るうえでは、自らコードを書いて集計やデータ処理を自動化し、限られた時間の中で最大限の成果を出せるよう工夫しています。現在は社内のAIエキスパートチームにも所属し、生成AIなど最新技術の導入にも挑戦しています。

小坂井 私も福井さんと同じように、岐阜大学で工作機械を動かして実際に自らの手で金型加工を行った経験が、今の設計業務に大いに役立っています。

福井 今後の目標としては、ソフトウェアに加えて、電気回路や基板などのハード面の知識も身に付け、試

作品の開発に幅広く対応できる力を身に付けていきたいと思っています。

小坂井 金型の世界は、ベテランの持つ経験とノウハウが非常に重要です。私もようやく一人で業務を進められるようになりましたが、今後は過去のノウハウに自分なりの視点を加え、新たなアイデアを盛り込んだ金型づくりに取り組んでいきたいです。

福井 進路を考えている高校生の皆さんには、「高校の勉強をおろそかにしないで」と伝えたいですね。まずは勉強を通じて幅広い分野を知り、自分の興味に合った学科を選ぶことが、大学生活をより有意義なものにする近道だと思います。岐阜大学は学びの環境が充実していますし、たくさんの友人とも出会えます。学生時代の仲間は一生の財産です。これから岐阜大学で学ぶ皆さんには、ぜひ新しい人との出会いを大切にしてほしいと思います。

小坂井 私自身、学生金型グランプリや海外での学会参加など、大学から多くの支援を受けて成長できました。岐阜大学は施設や指導体制が整っており、自ら学びたい意欲があればそれに応えてくれる場所です。ぜひ岐阜大学で自分の可能性を広げてもらいたいですね。

太平洋工業株式会社PROFILE

東証プライム上場の自動車部品メーカー。1930年に日本初の自動車用バルブコアの国産化を目指して創業以来、タイヤバルブ製品をはじめ、自動車用プレス・樹脂製品、電子・制御機器製品などを開発・生産して成長を遂げてきた。現在は海外市場にも対応し、世界7カ国で事業を展開している。

保育の現場で悩みを抱える先生に寄り添い、やりがいを持って働けるように支えたい。

子どもと関わっている先生たちの「声なき声」にどう向き合うか。「こころの専門家」として保育の現場で悩みを抱える先生たちに寄り添い、2022年に立ち上げた「ここあプロジェクト」の活動などを通じて、やりがいを持って働ける環境づくりに取り組んでいます。



教育学部
学校教育講座 教育心理コース
松本 拓真 准教授

心理の専門家の立場から
子どもを支援する側をサポート。

私は大学院生の頃から、子どもと家族を対象とした心理療法に取り組んできました。中でも関心を寄せてきたのは、「表現することが難しい子どもの心を、どうすくい上げるか」というテーマです。例えば、自閉スペクトラム症には、自分の好きなことに強くこだわり、興味の少ないことには全く関心を示さないといった特徴があります。しかし、その自閉スペクトラム症の中には、受身的な態度を示す子も一定数存在

するのです。「これをやろうね」と促すと素直に従うのに、「何がしたいの？」と尋ねると、黙り込んでしまふ。そうした子どもたちは、学校では「問題がない」と受け取られがちですが、保護者にとっては大きな不安の種です。「自分たちが一方的にルールを敷いていないか」「親のしつけが原因で自己主張できないのでは」と傷ついている方も少なくないのです。こうした“困っているように見えにくい”子どもや保護者の声に耳を傾け、社会全体の理解を広げていくことが私の役目だと考えています。

2019年に岐阜市でいじめによる自殺事件が起きたことをきっかけに、「SOSの出し方教育」に関わるようになったのも、そうした思いからでした。世間には「助けを求めない子どもが悪い」という誤解がいまだに根強くあります。しかし、いじめや虐待の本質は、被害者に「助けを求める資格がない」と思わせてしまう点にあります。だからこそ、SOSがうまく出せない子どもを責めるのではなく、支援する側を変えていかなければいけない。こうした問題意識のもと、私たちは子どもを取り巻く環境を整える取り組みとし



「ここあプロジェクト」とは
松本准教授とこころのげんき株式会社が連携し、2022年に発足した子どもの心の支援プロジェクト。心理職の育成、継続的な支援の場づくり、専門職や地域とのネットワーク構築を通じて、子どもと家族の心に寄り添う環境づくりを目指している。

<https://kokoaproject.jp/>

「ここあプロジェクト」の目的

①**子どものこころの専門家の育成**
子どものこころの支援に必要な卒後訓練・研修を提供し、子どものこころの専門家（心理職）を育成する。

②**心理支援センターの設立**
十分な面接室がある心理支援センターを岐阜に設立。心理療法をはじめとする「心の支援」を提供できる体制を整える。

③**ネットワークの構築**
心理療法の枠を超えた様々な専門家とのネットワークを構築。「あったらいいな」や「伝えたい」と思うこころのサービスを提供する。

職員がいきいきと働くための児童福祉施設・幼稚園向けEAPサービス

EAP（従業員支援プログラム）は、心理学や行動科学の観点から組織や個人における生産性に影響をもたらす課題の解決を支援。組織と個人の健康保持増進を目的としている。（オンラインでも対応可能）

EAPサービスの3つのポイント

- 1.組織を成長させよう**
組織は生き物。現状を把握して組織の成長と健康を阻むものに取り組みは職員の働きがいやモチベーションは高まる。
- 2.職員の成長を支援しよう**
職場での悩みごとや子ども・保護者対応上の困りごとを相談できる窓口を提供し、職員の成長を支援する。
- 3.メンタルヘルス不調に対応しよう**
職員のメンタルヘルス不調や離職が増加。不調や離職を防ぐため、職員の復職をうまく進めるための事業所サポートを行う。



組織の成長
いきいきはたらく
職員の成長を支援
メンタルヘルス不調に対応

で「ここあプロジェクト」を立ち上げました。

先生たちがやりがいを持てる
職場づくりを支援していく。



「ここあプロジェクト」は、2022年に岐阜市のこころのげんき株式会社と連携してスタートしました。心理、教育、福祉、医療など、子どもに関わるあらゆる専門職が職種を超えてつながり、相談や支援するシステムの構築を目的としています。私は岐阜大学で幼稚園教諭の養成にも関わっていますが、現場で働く先生たちが、保護者や社会からの圧力に苦しんでいる状況を目の当たりにしてきました。静岡県や三重県で保育虐待の事件が相次いだ2023年以降は、保育に対する風当たりがよ

り一層強まっています。現場の先生たちは、不信の目で見られながら質の高い保育を求められる状況に困惑し、疲弊している。こうしたことから私は、幼児教育の現場の声に応えるために、岐阜県の補助金事業を活用しながら、保育・幼児教育に携わる職員の心のケアにも力を注いでいます。

保育の仕事には「子どものために尽くすのが当たり前」「しんどくても文句は言うべきではない」といった、自己犠牲的な価値観があります。しかし、働きやすい環境を望むことは決してわがままではなく、持続可能な保育のために必要不可欠な視点です。現場の先生の中には、働き方改革を進める一方で、「若手職員との関係をどう築けばよいのか」と悩んでいる管理職の方も多くいます。そうした葛藤に寄り添うことも、私たち心理職の役割の一つだと感じています。2025年9月15日には、「妊娠から幼児教育、そして就学までの切れ目のない支援のあり方」をテーマにした岐阜大学シンポジウムをOKBふれあい会館にて開催する予定で

す。こうした活動を通じて、保育士や幼稚園教諭、そして子どもたちを支えるあらゆる人々のネットワークが少しずつ広がっていくことを願っています。

今後は、スクールカウンセラーの幼児教育版の「キンダーカウンセラー※」の育成にも尽力したいです。子どもの理解をサポートすると同時に、保育で働く人が安心とやりがいを持って働けるよう支援できるカウンセラーは数が足りておらず、実践も限られています。導入したい幼稚園・保育園も、志したい学生も大歓迎です。

※臨床心理士もしくは臨床心理士と同等の知識や技術を持ち、心理に関する専門家として幼稚園で園児の保護者のカウンセリングや教職員への助言を行う。



深い知識と豊富な臨床経験に基づき、子どもの精神分析的心理療法を学ぶ上で必要な理論と実践を統合的に解説した書籍を、継続的に発表している。

岐阜県特産の富有柿をブランド化し、生産から販売、輸出までを行う会社を起業。日本の農産物を名実ともに世界一にしたい。

2023年7月にUmai Japan株式会社を起業した応用生物科学部の杉本稜太さん。同社が取り扱う岐阜県特産の富有柿は、国内の高級スーパーやインターネットショップで販売されるほか、海外有名レストランのメニューにも採用され話題に。これまでの歩みと今後の目標について伺いました。



Umai Japan株式会社 代表取締役

杉本 稜太 さん

応用生物科学部 生産環境科学課程 4年

Umai Japan株式会社

2023年7月設立。愛知県名古屋市のオープンノベーション施設「STATION Ai」に本社を置き、岐阜県瑞穂市の自社農園と提携農家で高品質な富有柿「Umai KAKI 富有」と、直径3cmほどの希少なミニ柿「Umai KAKI ミニ」を生産。販売から輸出まで一貫して行っている。未経験者でも収穫時期を判定できる機器といった、スマート農業用IT機器の開発も産学官共同で行い、日本農業の技と先端技術の融合を図っている。誰もが効率よく、高品質な農作物を作れる世界を目指している。



岐阜県発祥 富有柿

富有柿は「柿の王様」とも呼ばれる甘柿の代表的な品種。根尾川がもたらす肥沃な土壌に恵まれた岐阜県瑞穂市で、すぐれた味や色、形に注目した瑞穂市居倉(旧栗南町)の農業技術者である福嶋才治が増殖に成功し、明治25年に「富有」と命名した。Umai Japanが販売する「Umai KAKI 富有」は、糖度や残留農薬、微生物などの自社基準をクリアし、味と安全性にお墨付きを与えた商品で、贈答用としても人気。また、瑞穂市の天然記念物でもある富有柿の母木は現在も柿を実らせ、その実もUmai Japanで取り扱っている。



自社農園での生産に加え、近隣の農家から柿を仕入れている。経験豊富な農家や学生アルバイトの力を借りているが、選別や出荷はほぼ1人で、自身の目で確かめながら行っている。



ロサンゼルスで開かれた展示会に出展するほか、現地の市場や小売店などに自ら足を運び、ひたすら柿を配り、飛び込み営業を重ねた。また、香港やシンガポールに輸出するなど、積極的に人脈を築き販路を模索した。



「起業部」への参加から踏み出した一歩が、国内農業の課題を根本解決したいという強い想いに。

持ち前の負けず嫌いで起業を決意しコンテストに参戦。

小学生でバレーボールを始め、強豪校の農業高校へ進学し、岐阜大学ではコロナ禍の影響を受けながらも勉強とバレー部の毎日を送っていました。あるときふと将来を考え、「バレーボールで食べていくのは現実的じゃない」と自覚。それなら起業しかないと、競技で培った負けず嫌いに火が着き、2年生になって起業部に入学しました。6月には東海地区の大学コンソーシアムによる起業家育成プロジェクトであるTongaliのビジネスコンテストで、スマート農業に関するアイデアで賞を獲得しましたが、まだ実現にはほど遠いものでした。そこで具現化の道を模索するため、トマト農家でアルバイトとして働き、近隣約100軒の農家

へヒアリングを実施。その結果、収益性の低さや人口減少による人手不足、新たな販路開拓や安定生産の難しさといった課題を知り、「根本的解決には業界構造を変える必要がある。自社生産・自社販売にこだわり、地域全体を巻き込んだ新しい農産物の形を作るしかない」との考えに至りました。

農家の課題も海外という販路も自ら見聞きしたからこそその収穫。

その後、視察したシンガポールのスーパーでは、日本の農産物のポテンシャルの高さを実感すると同時に、ブランディング改良の必要性を感じました。一方、大学周辺の柿畑では、後継者不足で伐採が進む光景が広がっていました。農林水産省が柿を輸出重点品目に指定したことを知り、「取り扱うなら柿、やるなら今だ」

と本気で起業を決意し、3年生にあたる2023年度の休学を決めました。6月には2度目のTongaliのコンテストで7つの賞を受賞し、賞金を資本に7月に会社を設立。金融機関からの融資やクラウドファンディングでさらに資金を集め、後継者のいない柿畑を借り受けて自社農園を開設しました。積極的に国内外のコンネクションを築いて販路を開拓しました。

初年度の販売を終え、海外からは「やっぱり日本産は素晴らしい」との声が届き、確かな手応えを感じています。今後はさらなる販路拡大に加え、観光農園や瑞穂市のインバウンド振興につながる柿の木のオーナー制度などを計画中。これまでと同様に目の前のアイデアを着実に形にしなが、日本の農産物を名実ともに世界一にする目標に向けて進み続けます。



通常の「Umai KAKI 富有」のほか、「Premium」と最高級の「極」、3つのグレードの商品を販売。このほか通常の岐阜県産富有柿や、皮ごと食べられる直径3cmの希少な「Umai KAKI ミニ」などを取り扱う。

ニューヨークのレストランやファーストクラス機内食に採用

「Umai KAKI 富有」はアメリカ・ロサンゼルスで注目を集めた。また、ニューヨークの有名レストランやスイーツ店とのコラボを実現させている。さらに、農産物への思いに共感したJAL Agriportが機内食として採用。2025年1月15日～2月28日の期間限定で、日本航空株式会社(JAL)の羽田発国際線のファーストクラス機内食デザートプレートとして提供された。「今まで食べた柿の中でいちばんおいしかった」との声も寄せられた。



住むことで見えてきた揖斐川町の魅力を、 多くの人に伝えたい。

2024年3月から岐阜大学地域協学センターと揖斐川町が連携して始まった「岐大生 住んでみよう！」プロジェクト。町内のアパートに移り住んだ岐阜大学生2人が、地域の伝統文化やご当地グルメを動画撮影するなど、学生ならではの目線を活かして揖斐川町の新たな魅力の発掘に取り組んでいます。



臼井 美里 さん(左)

2025年 応用生物科学部 生産環境科学課程 卒業

小島 ひなた さん(右)

自然科学技術研究科
生物生産環境科学専攻 応用植物科学領域 修士 2年

「岐大生 住んでみよう！」プロジェクト

混雑する公共交通機関を避け、大学から車で30分の揖斐川町の春日地域で、学生がアパートに無償で住み、安心して学びや研究に取り組める生活環境を提供するプロジェクト。学生は地域イベントなどの活動に積極的に関わることで、町のにぎわいづくりに貢献することを目指している。2024年2月には揖斐川町と正式に協定を締結し、臼井さんと小島さんの2人が町内のアパートへ入居。1年間にわたり、地域活性化につながる多彩な取り組みに挑戦した。



町域の約9割を森林で占め、豊かな自然に恵まれた揖斐川町。標高1,100～1,300m前後の山々がそびえ、町の中央部には一級河川の揖斐川が流れている。



岐阜県揖斐川町の郷土料理
菜もちの作り方



郷土料理「菜もち」は、里芋と米を一緒に炊き、大根の葉を混ぜて焼いたお餅。揖斐川町の伝統的な文化や貴重な地域資源を未来に受け継いでいくため、「菜もち」レシピの動画を制作。



伝統野菜の栽培管理や収穫にも積極的に参加。地元の方々と温かい交流が地域に溶け込む大きなきっかけとなり、ますます揖斐川町への愛着が湧いている。

四季折々の美しい自然や温かい交流を通じて、 1年間の暮らしでたくさんの魅力を発見しました。

はじめての一人暮らしを経験
四季折々の自然に魅了された。

小島 千葉の大学を卒業後、岐阜大学大学院への進学を決め、新たに住む場所を探すタイミングで研究室の大場先生に勧められて参加を決めました。臼井さんと1年間、揖斐川町のアパートで暮らしました。最初の頃は見たことがない野生動物に遭遇して驚きましたが、今ではこの地域に広がる四季折々の豊かな自然を満喫しています。

臼井 私の実家からは程よい距離にあり、一人暮らしのよいきっかけとなりました。大学1年生の頃から「里山暮らし応援隊」というサークルに所属し、揖斐川町の春日地域で活動していたこともあり参加を決めました。サークル活動の拠点へ通いやすくなりとても便利でした。

小島 活動で特に力を入れたのは、

地域の魅力を発信する動画の作成です。春日地域で昔から食べられている「菜もち」のレシピを動画撮影しました。花火大会や谷汲山華厳寺など地域のイベントや観光スポットの動画も撮影し、今後はYouTubeチャンネルの開設など、町の魅力を継続的に発信できる仕組みをつくりたいです。

町の担当者とも連携し
岐大生を呼び込み
プロジェクトのさらなる発展を。

臼井 岐阜大学の学生に、揖斐川町に足を運んでもらおうと、サークル・同好会向けにアンケートを実施しました。「町の施設を活用してみたい」「環境調査をやってみたい」といった前向きな意見も寄せられました。今後は揖斐川町の担当者とも検討を重ね、町とのつながりを深める機会を

生み出していきたいと思っています。

サークル活動で訪れていた貝原棚田にも頻繁に行けるようになり、在来種の「春日きゅうり」の収穫を通じて、地域の人たちとたくさん交流できました。卒業後は食品会社に就職しますので、将来的には伝統野菜を使った新商品を開発したいと考えています。今後も定期的にこの地を訪れ、揖斐川町との関わりを続けていきたいですね。

小島 私は今年も揖斐川町に住み、プロジェクトをさらに発展させます。今年度のプロジェクト参加者は私1人ですので、Instagramなどでの情報発信やチラシの配布などを通じてより多くの岐阜大学の学生にプロジェクトを周知し、参加者を増やしていきたいです。興味がある方はぜひ地域協学センターの益川浩一先生もしくは私に声を掛けてください！

プロジェクト報告会の概要

2025年3月31日、揖斐川町役場で「岐大生 住んでみよう！」プロジェクト報告会が開催され、臼井さんと小島さんがこれまでの活動成果を発表しました。春日地域の特産料理「菜もち」のレシピ動画の制作や大学内のサークル・同好会を対象にしたアンケート調査などの取り組みを報告しました。報告会には揖斐川町の岡部栄一町長も出席し、「今後は大学の研究活動の一環で町内の棚田を活用していただくなど、さらに連携を深めていきたい」と今後の活動に期待を寄せました。参加者からは、地域の活性化に向けたプロジェクトの可能性に対する前向きな声が多数聞かれました。



岐阜大学の学生が各種表彰を受けました

令和6年10月19日(土)

学生ボランティア団体「ゆにんくる」が「医療的ケア児者を応援する市区町村長ネットワーク」から表彰されました



令和6年11月9日(土)

「Tongaliアイデアビッチコンテスト2024」で2つの学生チームが優れた成績を収めました



令和6年12月1日(日)

土木デザイン設計競技イベント「景観開花。」において本学学生グループが優秀賞を受賞しました



スブラス・マレット大学と共催で気候変動に関する国際会議を開催しました

令和6年11月6日(水)～8日(金)

大学院連合農学研究科はインドネシアのスブラス・マレット大学と共催で、「第10回International Conference on Climate Change 2024」(ICCC:気候変動に関する国際会議)を岐阜大学にて開催しました。今年は「気候変動、植物、健康」をテーマとして、3日間で対面56名・オンラインで66名が参加。国際的な視点で多様な知見が共有され、次世代の研究者を育成する重要なステップとなりました。



「茂木健一郎先生と考える脳とAIのアライメント」を開催しました

令和6年11月13日(水)

OKB岐阜大学プラザにて、脳科学者の茂木健一郎先生を講師に迎えた特別講演「脳とAIのアライメント」を開催しました。このイベントは、グローバル推進機構、人工知能研究推進センター、工学部電気電子・情報工学科情報コースの共催で実施。「知性をどう定義するか」というテーマで、人間の目的や価値観を反映するAIの在り方について講演をされました。講演後には、茂木先生と本学教授らが教育や研究への協力について意見交換を行いました。



輪之内町と共催で「ぎふフューチャーセンター」を開催しました

令和6年11月24日(日)

地域協学センターと輪之内町は共催で、地域の人々による未来志向の対話を通じて、地域課題を解決することを目的とする「ぎふフューチャーセンター」を輪之内町文化会館にて開催。「楽しく知って広めよう！始めないともったいない！？家庭でできる省エネ行動」をテーマに、脱炭素社会に関するミニレクチャーや省エネ診断、グループワークなどが行われ、「とても有意義で勉強になった」といった意見が多く寄せられました。



大垣共立銀行と「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」を締結しました

令和6年12月10日(火)

OKB岐阜大学プラザにて、岐阜大学と株式会社大垣共立銀行による「遺言を活用した遺贈寄付に関する協定」締結式を行いました。本協定は遺贈寄付を円滑に実現するためのもので、本学への遺贈寄付を検討する方に対して、大垣共立銀行が専門的な知見を活かして助言を行います。安心して手続きを進められる環境が整備され、集まった寄付によって大学の教育・研究活動や地域社会の発展につながることを期待します。



「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」成果発表会を開催しました

令和7年1月30日(木)

「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」の一環として、工学部の学生や地域協学センター教員らによる成果発表会を開催しました。岐阜県、産業界、大学、さらには金融機関が連携し、県内企業の高度技術者などの確保・育成および定着を支援する本プロジェクトでは、28の学生グループが企業での実習で得られた学びの成果を発表しました。今後も産学金官が一丸となり、地域社会の課題解決に貢献できる人材育成に尽力してまいります。



第2回SPARC-GIFUシンポジウムを開催しました

令和7年2月11日(火)

第2回SPARC-GIFUシンポジウム「みんなで考えよう！元気な地域の人づくり～地域課題の探究と解決に向けて～」をホテルリソル岐阜にて開催しました。本シンポジウムは、岐阜大学・中部学院大学・岐阜市立女子短期大学が連携し、「SPARC-GIFU(ぎふ地域創発人材育成プログラム)」の一環として実施。招待講演やパネル・ディスカッションが行われ、各大学や地域社会がどのように人材育成に取り組むべきかを考える場となりました。



持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム(CSAP)が発足しました

令和7年3月1日(土)

岐阜大学と名古屋大学を運営する東海国立大学機構は、ボーイング ジャパン(株)、三菱重工業(株)、川崎重工業(株)、(株)SUBARUと共同で「持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム(CSAP)」を設立しました。このコンソーシアムは、航空機製造業界が直面する共通の課題に対処し、業界全体の持続可能性を向上させることを目的としています。これにより日本の航空宇宙産業が国際市場で優位に立つことが期待されています。



赤松諒一選手(本学教育学研究科修了)とスポンサー契約を締結しました

令和7年3月10日(月)

岐阜大学は、パリ2024オリンピック陸上男子走高跳びで、5位に入賞した赤松諒一選手(本学大学院教育学研究科修了、現SEIBU PRINCE所属、本学医学系研究科研究生)とのスポンサー契約を締結しました。赤松選手は2月にチェコで行われた国際大会の「スターズ in ネフヴィズディ 2025」に、岐阜大学のロゴが入ったユニフォームで挑み、2m25の記録で見事優勝を果たしました。本学は今後も赤松選手の活躍を応援していきます。



絵画「檸檬の木」寄贈に伴う除幕式を開催しました

令和7年3月25日(火)

洋画家の上葛明広さんから寄贈された絵画「檸檬の木」の除幕式を開催しました。上葛さんは飛騨市神岡町出身で、女子美術大学大学院教授などを務められ、令和5年度には紺綬褒章を受賞しています。今回は芸術を通じて社会貢献を行いたいという思いから、本学に絵画を寄贈いただくことになりました。今後、作品は岐阜大学図書館2階に展示されます。ぜひご覧いただき、「檸檬の木」の表現や思いを感じ取ってください。



南フロリダ大学と学術交流協定の更新調印式を実施しました

令和7年4月4日(金)

南フロリダ大学訪問団17名が岐阜大学を訪問し、学内外施設の視察および学術交流協定書の更新調印式に出席しました。同大学とは2016年に医学部が部局間協定を締結し、交換留学制度を確立。2020年の大学間協定締結後は、学生・教職員がそれぞれの大学を訪問し交流を深めており、2024年には南フロリダ大学医療教育シミュレーションセンターとの提携協定に発展しました。今回の協定更新により、さらに学術交流が深まることを期待します。



岐阜大学基金では、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など教育研究活動に活用させていただきます。

皆様におかれましては、岐阜大学基金の趣旨にご賛同いただき、継続的なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

岐阜大学基金学長特別表彰の贈呈式を実施しました（令和7年1月21日）

岐阜大学学生チーム「モータースポーツの魅力つたえ隊」は、フォーミュラレース中継のカメラマンを疑似体験できるVR作品を制作し、令和6年10月26日～27日に開催されたVR作品制作大会「IVRC2024」において、岐阜県勢として初めて総合優勝を果たすとともに、令和7年4月にフランスで開催される世界的VRイベント「Laval Virtual 2025」への招待権を兼ねた「Laval Virtual Prize」も同時受賞しました。本件は新聞にも大きく掲載され、本学の名誉を著しく高めた事由と認められることから贈呈となりました。

贈呈式では、吉田学長から「Laval Virtualへは本学が3年連続の参加となり、是非ともいい報告を待っています」と激励され、表彰状と



もに、副賞の活動支援金が授与されました。これに対し、学生は「この作品は多くの人的ご支援により完成することができたもので、大学からこのような賞をいただけることを嬉しく思います」と応えました。

岐阜大学基金についてのお問い合わせ先

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学Development Office（DO室）
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279
E-mail kikin@t.gifu-u.ac.jp

ご寄附のお申し込みはこちら
<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>



※お振込用紙をご希望の場合は、上記お問い合わせ先へご連絡ください

ご寄附者芳名録

令和6年10月から令和7年2月末までにご寄附いただいた方で、掲載をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。また、3月以降にご寄附をいただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学教職員につきましては割愛とさせていただきます。

ご寄附をいただき、心よりお礼申し上げます。

藍原 寧 様	岩山 典子 様	木田 惠次 様	佐々美代子 様	田口 智一 様	丹羽 達哉 様	松岡 恵子 様	矢田 泰生 様
秋山 幸之朗 様	上田 元信 様	北畠 真紀 様	高太郎 健 様	澤幸一朗 様	竹澤 幸一朗 様	松田 典芳 様	大仁 純子 様
浅井 和弘 様	鶴村 晃守 様	木寺 悦子 様	佐藤 仁志 様	田中 茂 様	田中 茂 様	松田 聖子 様	山口 多朗 様
浅野 政一 様	江崎 勝則 様	鬼頭 千尋 様	佐藤 安昭 様	田中 治子 様	田中 治子 様	松原 知文 様	山口 多朗 様
浅岡 淳一 様	江崎 勝則 様	桐山 綾子 様	佐藤 安昭 様	田中 義昭 様	田中 義昭 様	丸山 幸太郎 様	山崎 達男 様
浅野 直美 様	大江 史花 様	楠井 徳之 様	佐野 影之 様	田中 瑞人 様	田中 瑞人 様	丸山 幸太郎 様	山下 敏彦 様
浅野 弘 様	大久保直世 様	工藤 美幸 様	澤 英之 様	田中 保知 様	田中 保知 様	水野 智章 様	山田 啓二 様
浅野 勝己 様	大竹喜代一 様	熊澤 忍 様	篠田 みほ 様	棚瀬 保雄 様	棚瀬 保雄 様	水野 芳晴 様	山田 典子 様
荒川 貞雄 様	大野 聡 様	倉本 弥生 様	柴田 弘 様	谷口 和視 様	谷口 和視 様	箕浦 秀樹 様	山中 實 様
荒木 三 様	大橋 聖也 様	栗本 悟 様	柴山 知之 様	村 昌一 様	村 昌一 様	箕浦 秀樹 様	山本 哲也 様
安藤 成人 様	大橋 真佐子 様	桑原 富子 様	柴水 志 様	辻 晋也 様	辻 晋也 様	林 三船 巧大 様	楊 睦正 様
安藤 隆造 様	大町 深雪 様	桑原 正彦 様	下野 達宏 様	徳重 雄樹 様	徳重 雄樹 様	宮田 幹二 様	吉田 政直 様
飯田 辰美 様	岡田 和明 様	桑原 信希 様	白髭 昌男 様	戸澤 英美 様	戸澤 英美 様	宮武 博明 様	吉見 良太 様
飯谷 尚剛 様	岡田 実 様	桑原 誠美 様	白髭 昌男 様	富川 侑誼 様	富川 侑誼 様	見山 政克 様	吉村 彰伸 様
石井 英一 様	小川 剛矢 様	小島 曾也 様	末松 辰朗 様	戸全 泰規 様	戸全 泰規 様	麦谷 俊輔 様	吉本 光一郎 様
石川 範子 様	小川 春夫 様	小島 伸二 様	杉浦 吉彦 様	豊島 一成 様	豊島 一成 様	武藤 音丸 様	吉本 光一郎 様
石川 由美子 様	奥田 哲司 様	小島 元彦 様	杉原 達彦 様	鳥居 ひとみ 様	鳥居 ひとみ 様	村井 独歩 様	吉本 光一郎 様
石橋 恵弘 様	小倉 侑 様	小島 元彦 様	杉山 保幸 様	中嶋 公子 様	中嶋 公子 様	村上 さと美 様	吉本 光一郎 様
伊田 明弘 様	小田 啓介 様	小島 政七 様	杉山 保幸 様	中嶋 洋 様	中嶋 洋 様	村田 裕行 様	吉本 光一郎 様
板津 卓世 様	折橋 毅典 様	後藤 裕 様	須藤 良久 様	中島 康雄 様	中島 康雄 様	森 一浩 様	若原 渡邊 様
市川 武彦 様	笠井 寛 様	後藤 裕 様	須藤 貴志 様	中筋 弘章 様	中筋 弘章 様	森 敬一 様	渡邊 正喜 様
市川 宏子 様	加藤 哲 様	後藤 裕 様	関根 昌 様	長瀬 敏之 様	長瀬 敏之 様	守屋 昇 様	
市川 雅弥 様	加藤 肇 様	小林 雄作 様	曾根 啓一 様	長谷 行洋 様	長谷 行洋 様	森脇 久隆 様	
市原 美里 様	加藤 肇 様	小林 良博 様	高木 敏治 様	中村 星 様	中村 星 様	安江 隆夫 様	
伊藤 秀久 様	金井 健太郎 様	小洞 政一 様	高木 敏彦 様	名知 祥 様	名知 祥 様	安江 隆夫 様	
稲山 一成 様	加納 直紀 様	小見山 輝一 様	高木 敏彦 様	名和 真千子 様	名和 真千子 様	安田 高明 様	
大塚 貴 様	加納 宏 様	小森 秀明 様	高橋 明博 様	仁木 俊夫 様	仁木 俊夫 様	安田 泰章 様	
今井 淳 様	唐澤 星人 様	近藤 富雄 様	高橋 史郎 様	西浦 勢津子 様	西浦 勢津子 様	安田 泰章 様	
今井 眞弓 様	川島 光夫 様	近藤 東臣 様	高橋 直久 様	西尾 好司 様	西尾 好司 様	安田 泰章 様	
岩田 知子 様	神原 隆彦 様	近藤 健男 様	高橋 義人 様	西川 幸佑 様	西川 幸佑 様	安田 泰章 様	
岩田 元 様	神原 隆彦 様	坂下 盈彦 様	高橋 義人 様	西野 佳秀 様	西野 佳秀 様	安田 泰章 様	
岩間 亨 様	神戸 一男 様	酒向 三冬 様	高畠 良 様	西村 千恵美 様	西村 千恵美 様	安福 真実子 様	

法人・団体等

(株) Alumnote	岐阜大学学生企業展実行委員会	(株) CMC総合研究所	早川精機工業 (株)
岩砂病院・岩砂マニティ	岐阜大工業化学科S41年卒同窓会	(医) 社團基金会おのレディースクリニック	ミニストップ (株)
(株) 大垣共立銀行	(株) 協和設計	すずらん歯科医院	
大島印刷 (株)	(医) 香風会 黒野病院	新美クリニック	
岐阜県厚生農業協同組合連合会	公立学校共済組合 東海中央病院	萩原電気ホールディングス (株)	他3法人

岐阜大学協力会

GIFU UNIVERSITY COOPERATION ASSOCIATION

岐阜大学 × 会員企業
地域にまだない、あたらしい共創を

岐阜大学との交流の機会を増やして、
企業の活性化、新規事業展開を目指しませんか？

協力会 会員企業募集中

岐阜大学協力会では、以下のようなサービスを会員企業様に提供しています



産学官による交流機会の提供

- ・産学官交流会の開催
- ・岐阜大学技術交流研究会、会員企業R&D向上の成果発表会(協力会フォーラム)の開催
- ・産学連携フェアやラボツアーなどの開催



研究・技術シーズ情報の提供

- ・技術等相談分野や共同研究希望テーマなどを収録した教員紹介冊子を公開
- ・機関誌「協力会ニュースレター」、産学連携活動報告「G-NICE」を配布
- ・メール「岐阜大学協力会通信」等で、産学連携関係の大学主催イベント等を紹介



岐阜大学との連携機会の提供

- ・技術相談、共同研究などの連携機会の提供
- ・企業向け出前セミナー(岐阜大学教員)の開催
- ・総会での記念講演会、特別講演会への参加案内



人材採用・育成支援

- ・当ホームページを通じた採用情報の発信
- ・地元就職を希望する岐阜大学卒業生に対する会員企業の紹介
- ・岐阜大学と連携したインターンシップ支援
- ・企業向け出前セミナー(岐阜大学教員)の開催

▶詳しくは岐阜大学協力会HPをご覧ください

<https://www.gifu-u.com/>



「岐大のいぶき」に企業広告を掲載しませんか？

裏表紙もしくは
裏表紙の裏面に
掲載します

広報媒体：岐大のいぶき（発行部数30,000部）

配 布 先：全保護者、東海・北陸・近隣県の高等学校、県内市町村、
金融機関、道の駅、近隣県公共施設、学内等

掲載位置：裏表紙もしくは裏表紙の裏面（右図のとおり）

掲 載 料：全面サイズ1枠あたり 200,000円～
1/2サイズ1枠あたり 80,000円～
1/4サイズ1枠あたり 50,000円～

申込方法等は大学HPをご確認ください。

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/advertising.html>



アンケートに答えて 岐阜大学オリジナルグッズを GET!!

今後のより良い誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。岐阜大学広報誌「岐大のいぶき No.49」に添付されたアンケートハガキでアンケートにご協力いただいた方の中から、**抽選で6名様**に学生がデザインを考案した**「岐阜大学マスキングテープ（2種類）」**を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。



プレゼント応募締切：令和7年12月22日(月)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※重複でのご応募は無効とさせていただきます。



「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹（いぶき）山と生気・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、“伊吹おろし”と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力（いぶき）を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

岐大のいぶきはWEBからも
ご覧いただけます！



<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>

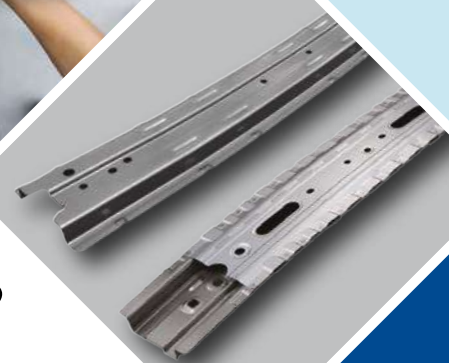
岐阜大学公式 X (旧 Twitter)
やってます。



@GifuUniv_PR こちらからアクセス！



Passion



思いをこめて、あしたをつくる
Passion in Creating Tomorrow



太平洋工業株式会社



Create



Tomorrow



自動車用プレス・樹脂・バルブ製品などの開発、製造、販売をグローバルで展開

車体軽量化を実現するプレス製品や樹脂製品、世界シェア 50%のタイヤバルブを生産しています。
長年にわたって培ったコア技術を活用し、SDGs などの社会課題を解決できる企業として、新製品・
新規事業を創出し続けていきます。

会社 HP

